

2016年12月期決算説明会における主な質疑応答

(2017年2月6日(月)、東京)

Q1. 今期の計画において増益寄与の大きい事業、中計のカギを握る事業を教えてください。

A1. いずれも、液晶用基板ガラスとガラスファイバです。液晶は、昨年、数量が微増であった一方で、価格は下落しました。また、修理や中国(厦門)の台風被害などで利益は下押しされましたが、今期は増益を計画しています。ガラスファイバは生販とも好調で売上の増加に沿って利益を増やせる見込みです。電子部品も一定の利益率を維持できると見ており、240億円の営業利益(17年度見込み)は達成可能と考えています。

Q2. 液晶は年後半に数量を伸ばしていくようだが、他の増益要因はないか。また、今期、昨年に中国や韓国で発生したような修繕費や立ち上げ費用はどうか。

A2. 中国では昨年厦門のライン立ち上げがありました。今期はありません。韓国も殆どのラインを昨年修理し、今期1Q(第1四半期)に数ラインを修理した後は修理予定がありません。よって、これらの改善効果が出てくると見ています。日本も設備改善の手を打っており足下で生産性が上がってきています。

Q3. 中計目標の営業利益300億円を達成には、引き続き、液晶やガラスファイバがポイントと考えてよいか。

A3. そのとおりです。来年(2018年)は、厦門の第二期設備の立ち上げや新たな修理も予想され、利益率は変わらないかもしれませんが、売上は少し増やせると思っていますので、利益の絶対額では貢献すると思っています。

Q4. “業績進捗により増配を検討”とのことだが、増配の要件としては何が目安になるのか。

A4. まずは配当性向を100%以内になりたいと思います。そういう意味で、基本的には当期利益の進捗を見て判断となりますが、今期目標である170億円(当期利益)が一つの目線と考えています。配当の考え方は以前よりDOE2%を意識しており、先々この水準に到達したいと考えています。

Q5. 旧PPG欧州取得による増収効果、ガラスファイバのオーガニック成長の見通しについて教えてください。

A5. 旧PPG欧州は年間1.4~1.5億ユーロの売上です。昨年その1/4が4Qに連結されましたので、今期は残り3/4である100億円強の増収効果があります。昨年11~12月にかけてマレーシアがフル生産に入りました。これにより、生産能力が1割程度引き上げられましたので、今期その分は増収につながると思います。

Q6. 旧PPG欧州取得の損益影響について教えてください。

A6. 営業利益への影響はニュートラルです。M&A後に資産の再評価を行い、評価が上がった部分は償却費用が上がりますし、のれんの償却もあります。買収以前は、営業利益が十分出ている事業でしたが、これらの費用を加味して利益貢献はゼロと見ています。但し、先々マレーシアや日本から欧州に輸出していた物量をEGF(旧PPG欧州)で生産すれば物流面のコストダウンが図れます。また、販売量が増えることでお客様との関係強化が図れ、開発品の受注が増えていくなどのシナジーも期待できます。先々これらの効果が出てくると考えています。

Q7. 液晶用基板ガラスの今期の市場成長は。昨年シェアを少し落とし、今年は回復するとのことだが、価格下落を相殺する程度の数量増は織り込んでいるのか。

A7. 市場成長は 5%程度と見ています。当社は、市場成長より少し高い伸び率を織り込み、売上で前年比「横ばい～微増」を見込んでいます。

Q8. 液晶用基板ガラスの今期の価格の見通しは。

A8. 下落幅はさらに緩やかになり、年率 1 桁半ばから後半%の値下がりになるのではと推測しています。

Q9. 液晶用基板ガラスの利益率は今後どのように推移するか。

A9. 今期、利益率は上昇すると見ています。ただ、1Qは修繕費が高止まりし、出荷は季節要因で少し落ちます。よって、利益率は2Q以降に改善していく見込みです。

Q10. 中計発表時、液晶用基板ガラスは価格下落を抑えつつ色々な施策を行えば、一定の利益率は確保できるとのコメントがあった。今期の進捗をどのように見ているか。

A10. ラインによってはすでに生産や品質で効果が出始めていると思います。

Q11. 旧 PPG 欧州取得関連で一過性の費用があり、今期それが剥落することで増益につながるようなものはないか。

A11. エージェント費用といったものが約 5 億円ありました。

Q12. 今期予想では、経常利益から当期利益に至る率（200 億円→170 億円）が良くなっている。税率と特損益の状況を解説してほしい。

A12. 利益の源泉である海外工場の税率が低いことがあげられます。一方、日本では利益が出にくくなっていますので、今期の税金費用が少なくすむと見ています。特損益については、大きなものは見ていません。

Q13. 減価償却費が前年の 371 億円から今期 312 億円に大きく減っているが、要因は何か。

A13. 韓国の液晶事業の償却が短期であり、その部分の減少が効いています。また、設備等も減損していますのでその部分は減っていると思います。

Q14. 今期、エネルギーコストは横ばいとのことだが、設備のロングライフ化による修繕費減がコスト削減につながるという理解でよいか。

A14. ロングライフ化によるコスト削減は、今期は織り込んでいません。ただ、特別修繕引当の見積もり変更の効果が昨年 4Q から営業利益ベースで発現しています。1Q～3Q の部分は特別利益に計上されましたが、4Q 以降は売上原価に反映されますので、今期も営業利益を押し上げる効果はあります。

Q15. 中国向けの液晶用基板ガラスのシェアを、現在の 10%台から 20%台に引き上げたいとのことだが、LGD 広州向けと BOE 福州向けの出荷増で 20%以上になるということか。また、中国パネルメーカーの G10 投資に対して、ガラスメーカーはどう対応していくのか。

A15. G10 以上を除けば、これらの向け先への出荷増により中国で 25%程度のシェアになると思っています。当社は廈門で G8 を生産していますが、G10 は輸送などを考えるとパネル工場の至近に窯を作る必要があります。このため新たな多額投資となり、当社としては中国で G10 のガラス生産に踏み切ることは中々難しい状況です。

Q16. 中計の売上目標達成には、今期から来期にかけて約 400 億の売上を積上げることが必要だが、どのような施策を考えているのか。

A16. 400 億円の約半分はディスプレイで伸ばす予定です。ディスプレイはオーガニック成長のみですが、廈門第二期設備稼働による貢献に期待しています。残りは、ガラスファイバと電子部品が中心になります。ガラスファイバは、ノンオーガニックならば時間的に達成は早いと思いますが、自前でやる場合は新たに設備を作る必要があり 1～2 年遅れるかもしれません。

Q17. ガラスファイバは、北米市場などで事業拡大に取り組んでいくのか。

A17. アメリカの拠点は必要と考えています。アメリカでは、近年原燃料のコストが安くなっていますし、アジアからの輸送には関税や運賃の負担があります。ガラスファイバは単価が安い一方でこれらの物流経費の負担が重たく、現地生産のメリットは十分にあります。

Q18. 旧 PPG 欧州を取得した意味合いについて教えていただきたい。例えば、非日系の自動車メーカーとの関係強化や従来の顧客ベースとは違った分野での事業拡大などか。

A18. 欧州事業拡大のための基礎を作りたかったということと、現地顧客からのご要望もありました。欧州拠点の取得によって、シェアを底上げするメリットはありますが、お得意先が変わったとか、新しく扱うものが増えたということはありません。ただ、旧 PPG 英国工場は自動車部品向けエンブラではなく風車ブレード向けのファイバ事業が大きく、その分野で全く新しいお得意先とのつながりができたという効果はあります。

Q19. 液晶用基板ガラスで廈門第一期の拠点が本格稼働してきたが、生産性は目論み通り向上してきているか。

A19. 廈門については想定どおりの生産性です。予定通りの工事費用で収まりましたし、台風被害を受けたことを除けば想定以上に良い立ち上がりで、足下では好調な生産が続いています。

以上

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。